

生活習慣病早期発見推進事業費

事業評価個票（事業実施：平成30年度）				部局名	健康福祉部			
短期アクションプラン	テーマ	テーマ2 いのちと暮らしを守る安全安心な社会の構築						
	施策	施策1 安心して健康で長生きできる社会の実現						
	目的	高齢者人口の増加などによる将来の医療需要の変化を見据えた医療提供体制の充実と、生涯にわたりいきいきと暮らしていくための基盤である心身の健康づくりを進め、「健康長寿やまがた」を実現する。						
	目標指標（R2）	①健康寿命の全国順位(男) ②健康寿命の全国順位(女)	①10位以内 ②10位以内					
	策定時の実績	①男22位(H25年) ②女30位(H25年)	現状	①男7位(H28年) ②女23位(H28年)	主要事業	生活習慣病対策の強化		
事業名	生活習慣病早期発見推進事業費		担当課・担当	健康長寿推進課 健康づくりプロジェクト推進室 健康づくり担当				
事業開始年度	平成18年度		事業終了(予定)年度	未設定				
事業の目的 (目指す姿を3行程度で簡潔に)	がん、心疾患、脳血管疾患等の生活習慣病の動向を把握し、市町村、医療保険者及び検診実施機関に対し、検診の実施方法や精度管理の在り方等について専門的な知見から適切な指導を行う。また、脳卒中・心筋梗塞の発症の地域格差等環境因子の究明や効果的な予防や治療方法を研究する。							
事業概要 (5行程度で簡潔に)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生活習慣病検診等従事者講習会の開催(山形県医師会への委託)</li> <li>○山形県生活習慣病検診等管理指導協議会の開催</li> <li>○脳卒中・心筋梗塞発症登録評価研究事業(山形大学医学部への委託)</li> <li>○脳卒中・心筋梗塞発症登録精度管理事業(精度管理を行う医師の確保)</li> <li>○脳卒中・心筋梗塞発症登録評価研究活用事業(上記登録データに基づく医療や介護従事者への研修)</li> </ul>							
nu	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他 上記実施方法とする理由:本事業には相当の専門的な知識やノウハウが必要であり、山形県医師会や山形大医学部への委託することが効率的かつ効果的である。							
予算額・決算額 (単位:千円)	費目(予算見積書のグループ名)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
	生活習慣病検診等従事者講習会	1,560	1,560					
	山形県生活習慣病検診等管理指導者協議会	339	621					
	脳卒中・心筋梗塞発症登録評価研究事業	4,500	4,500					
	脳卒中・心筋梗塞発症登録精度管理事業	557	557					
	脳卒中・心筋梗塞発症登録評価研究活用事業	243	236					
	計	7,199	7,474	0	0	0		
財源内訳 (単位:千円)	国庫支出金							
	繰入金	4,743	4,736					
	その他特定財源							
	一般財源	2,456	2,738					
	計	7,199	7,474	0	0	0		
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
	「検診事業評価のためのチェックリスト」の評価結果について、次のがん検診において「B」評価以上の市町村数 ※A～Fの6段階胃がん	活動実績	市町村数	8	29			
		当初見込み	市町村数		15	22	29	35
	肺がん	活動実績	市町村数	7	27			
		当初見込み	市町村数		14	21	28	35
	大腸がん	活動実績	市町村数	12	30			
		当初見込み	市町村数		18	24	30	35
	子宮がん	活動実績	市町村数	7	29			
		当初見込み	市町村数		14	21	29	35
	乳がん	活動実績	市町村数	8	31			
当初見込み		市町村数		15	22	29	35	
成果指標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標 (所管部局の分析)	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
	がんの75歳未満 年齢調整死亡率 (「検診事業評価のためのチェックリスト」の評価結果が「B」以上になることはがん検診の精度管理が向上することであり、がん検診の精向上により早期発見されるがんが増え、死亡率の減少につながる)	成果実績	人口10万対	H28 76.6	H29 69.7			
		目標値	人口10万対	—	—	—	—	69
		達成度	%					
関連事業								

事業目標の考え方(事業目標設定時)

がんは死亡原因の1位であるが、がんの種類によっては、がん検診により早期にがんを発見し早期に治療を行えば、治る病気である。がん検診の精度管理をしっかりと行い検診の質を高めることにより、がんの死亡減少効果が高まると考えられる。がんの75歳未満の年齢調整死亡率の数値目標67は第2次山形県がん対策推進計画でH27目標年とした数値であったが、未達成であり、引き続きH34年の目標値として取り組む予定である。

事業所管部局による評価・検証

	項目	評価	評価に関する説明
事業目標の妥当性・達成度	事業の目的は県民や社会のニーズを的確に反映しているか。	A	・指針等に沿った正しい検診体制の構築を図ることは検診の有効性を担保するものであり、検診の実施機関である市町村等に対して専門的な見地から指導を行うことは、がん検診の目的(死亡率の減少)を達成するために必要不可欠である。 ・がんの75歳未満の年齢調整死亡率の数値目標67は山形県がん対策推進計画によるものである。 ・「検診事業評価のためのチェックリスト」の評価結果が「B」評価以上の市町村数が、当初見込みに比べ大幅に増加している。
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。	A	
	目標水準は妥当か。	A	
	期待する成果が得られたか。	A	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	—	
事業内容の妥当性	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	A	・平成30年度は、いずれのがん検診についても当初見込みを上回る活動実績となっている。 ・専門的な見地から、支出先(山形県医師会、山形大学医学部)は限定される。 ・当該事業は、検診の精度管理のあり方等について市町村及び検診機関に対して技術的支援や適切な指導を行うための協議会の運営、脳卒中・心筋梗塞等の調査研究・報告にかかる必要経費である。
	支出先の選定は妥当か。	A	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	A	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	A	
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	A	
類似の事業がある場合、他部局等と適切な役割分担を行っているか。	A		
の役割分担	市町村、民間等に委ねることができない事業なのか。	A	・市町村及び検診機関に対して専門的な見地からの技術的指導が必要であるため、県による事業実施が妥当である。
今改善の点課題	・平成30年度の活動実績は当初見込みの数値を超え、事業の効果が確認できている。 ・自己評価によるものであるため、市町村間、検診機関間に解釈や認識のずれがないか確認を行う必要がある。		

- ・事業所管部局による評価にあたっては、以下の4つの選択肢から、1つを選ぶこと。
- A: 目標を上回って達成する見込み。期待通りの成果(100%以上)。妥当。
- B: 目標を概ね達成する見込み。概ね期待通りの成果(80~99%)。概ね妥当。
- C: 改善の余地あり。期待した成果を下回っている(79%以下)。
- : 該当しない